

研究機関名：旭川医科大学

|              |  |
|--------------|--|
| 承認番号         | 19171  |
| 課題名          | 急性虫垂炎の適切な術式選択の検討   |
| 研究期間         | 西暦 2020 年 1 月 15 日 ～2021 年 3 月 31 日  |
| 研究の対象        | 2011 年 1 月～2021 年 3 月 31 日までで、当院で急性虫垂炎手術を受けられた患者さん   |
| 利用する試料・情報の種類 | <input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：詳細（病歴・カルテ番号・年齢・性別・術前情報（術前診断・併存疾患・術前画像等）、手術情報（術式・手術時間・出血量・腹腔鏡の使用等）、病理診断、術後合併症、在院期間、転帰等）<br><input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ）<br><input type="checkbox"/> 血液<br><input type="checkbox"/> その他（ ）   |
| 研究の意義、目的     | 急性虫垂炎は多くの方がかかる病気です。過去はその多くが外科的療法をなされていましたが、抗菌薬の進歩に伴い、いわゆる抗菌薬で「散らす」治療が成功せることが増えてきました。同じ虫垂切除を行うにしても、待機手術で行ったほうが手術の安全性は高まります。腹腔鏡手術の進歩に伴い傷の少なくなる手術も当院では行っています。このように虫垂炎治療の方法は多岐に渡りますが、適切な治療の選択肢を選ぶべき指標はありません。本研究で虫垂炎手術を施行された症例を後方視的に検討し、虫垂炎患者への適切な治療方針選択となる指標を見つけ出したいと考えています。   |
| 研究の方法        | 2011年1月からの期間で虫垂炎による手術を受けた患者さんについて、主にカルテを用いた診療情報・画像情報を検討します。  |
| その他          |  |
| お問い合わせ先      | <p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：<br/>         旭川医科大学 外科学講座 消化管外科学分野<br/>         電話 0166-68-2503 FAX 0166-68-2193</p> <p>研究責任者：<br/>         旭川医科大学外科学講座 消化管外科学分野 講師（学内） 庄中 達也</p> |